

第 2 章

テーマ分析& 取組事例

テーマ分析

「運動が楽しいとき」から考える
運動が苦手な児童生徒の特徴と、
体育授業の取組について

● 40

1 「運動やスポーツが楽しいとき」から見える
運動が苦手な児童生徒の特徴 ● 40

2 運動が苦手な児童生徒でも運動やスポーツが
楽しいと感じる授業の取組について ● 44

取組事例

運動が苦手でも
「運動やスポーツを楽しい」と
感じている児童生徒が多い学校の
取組事例 ● 51

→ 小学校

取組事例 1 群馬県伊勢崎市立広瀬小学校 ● 52

取組事例 2 愛知県豊橋市立老津小学校 ● 54

取組事例 3 京都府京都市立朱雀第七小学校 ● 56

取組事例 4 北海道札幌市立前田小学校 ● 58

→ 中学校

取組事例 5 三重県三重郡川越町立川越中学校 ● 60

取組事例 6 和歌山県有田市立箕島中学校 ● 62

「運動が楽しいとき」から考える 運動が苦手な児童生徒の特徴と、 体育授業の取組について

今年度は、「運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき」はどんなときなのかを切り口として、どのような活動や場面が求められるのかについて検討した。また、運動が苦手な児童生徒に着目し、運動が苦手でも楽しいと感じる取組を探り、運動やスポーツが楽しいと感じる児童生徒を増やし、それを通して運動の習慣化や体力の向上に結び付く取組を検討した。

1

「運動やスポーツが楽しいとき」から見える 運動が苦手な児童生徒の特徴

体力総合評価別、男女別で見る 「楽しいと感じたとき」

「運動やスポーツを行って楽しいと感じたのは、どのようなときですか」（質問2）において、小学校で半数を超える児童が楽しいと感じたときとして回答したのは「勝ったとき」「記録が伸びたとき」「上手にできたとき」「できなかったことができるようになったとき」「教えてもらって、できるようになったとき」「先生や監督・コーチなど大人に褒められたとき」「友達に褒められたとき」であった。また、男女別に回答率の上位4項目を見ると、「勝ったとき」「上手にできたとき」「記録が伸びたとき」「できなかったことができるようになったとき」が共通項目であるものの、「勝ったとき」の回答の割合については他の項目と比べて男子の方が顕著に多かった（図1-1）。

中学校で半数を超える生徒が楽しいと感じたときと

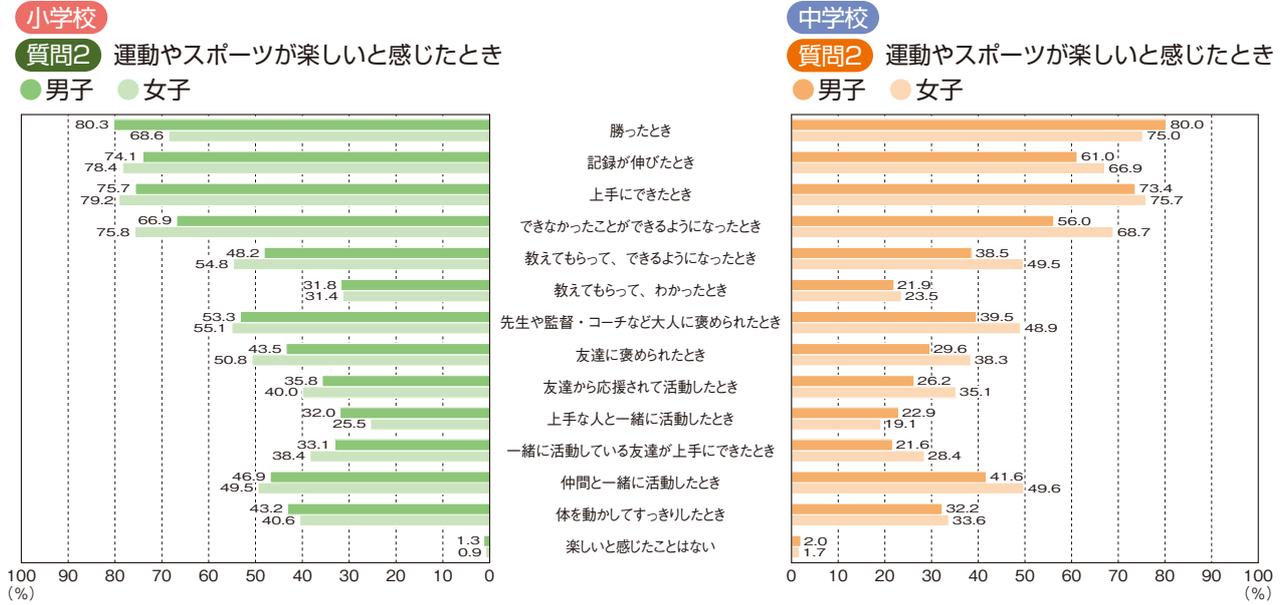
して回答したのは「勝ったとき」「記録が伸びたとき」「上手にできたとき」「できなかったことができるようになったとき」であった。男女別の回答率の上位4項目は小学生と同じ項目であり、最も高い割合を示した項目についても小学生と同じく、男子で「勝ったとき」、女子で「上手にできたとき」であった。

次に「運動やスポーツが楽しいと感じたとき」（質問2）の回答を体力総合評価別と比較した。体力総合評価AB群とDE群を比較すると、その回答の割合は総じてDE群がAB群よりも低く、運動が楽しいと感じる児童生徒がDE群において少ないことが分かった。さらに、DE群の回答率を小学生と中学生とで比較すると、その割合は小学生よりも中学生のほうが低かった。一方、「楽しいと感じたことはない」の回答の割合に着目すると、全児童生徒の中ではわずか1~2%程度であるが、DE群に限定すると3~5%程度に上昇する。特に中学生女子においては7.0%であった（図1-1、図1-2）。

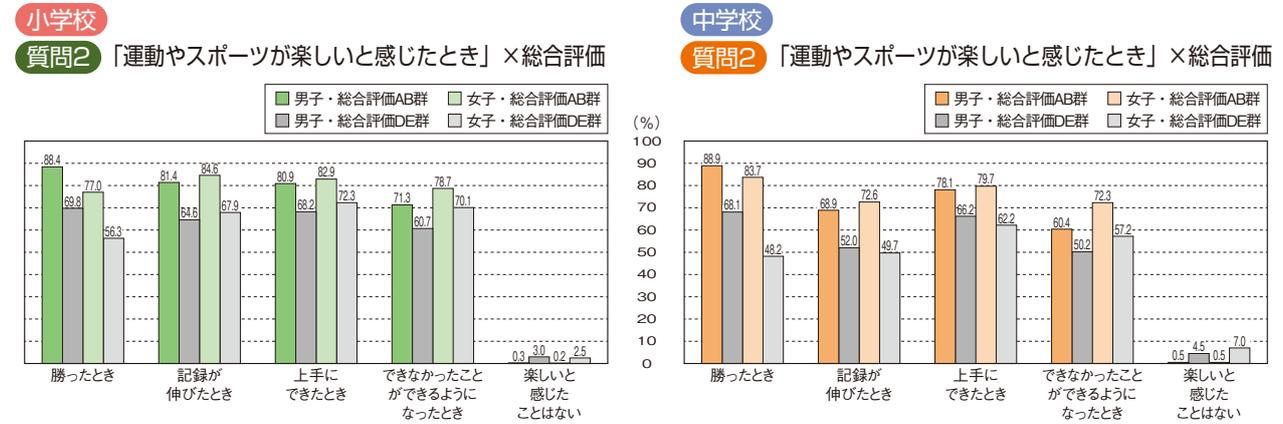
AB群とDE群とで運動やスポーツが楽しいと感じるときの回答の割合が上位の項目を比較すると、男子では「勝ったとき」が最も高い割合を示し、小学生と中学生とで共通していた。一方、女子ではAB群にお

いて「記録が伸びたとき」(小学生)と「勝ったとき」(中学生)が最も高い割合を示したのに対して、DE群では小学生と中学生ともに「上手にできたとき」で最も高い割合となった。

【図1-1】 どのようなときに運動やスポーツが楽しいと感じたかについての男女比較



【図1-2】 体力総合評価別に見た「運動やスポーツが楽しいと感じたとき」の割合



まとめ

これまでの調査結果から、運動やスポーツが楽しいと感じている児童生徒は体力が高く、1週間の総運動時間も多いたことが分かっており、運動やスポーツが楽しいと感じる児童生徒を増やすための教育的取組が求められている。今年度の分析結果からは、どんなときに楽しいと感じるかが明らかとなった。特に、勝った

り、上手にできたりすることを通して喜びを味わうことや、他者から褒められたり、仲間と一緒に活動したりするなど、人との関わりを通じた活動が楽しさにつながっている様子がうかがえた。それと同時に、楽しいと感じるときが男女や体力状況によって異なることも明らかとなった。こういった知見を参考に、各児童生徒の特徴を踏まえた体育的活動の推進が求められる。

●参考事例→P.52

「運動が好き」「授業が楽しい」と「運動やスポーツが楽しいと感じたとき」の関係

運動やスポーツへの意識と運動やスポーツを行って楽しいと感じたときの関連性を見るため、「運動やスポーツをすることは好き」（質問1）と、「運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき（複数回答可 14項目）」（質問2）における平均選択数のクロス集計を行

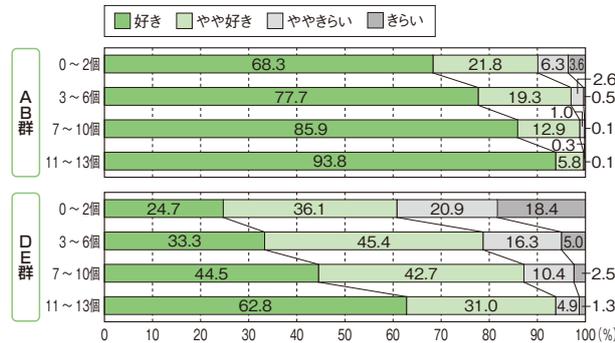
った。

「運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき」の平均選択数が多いほど、運動やスポーツをすることが「好き」と回答する割合が高かった（図1-3）。

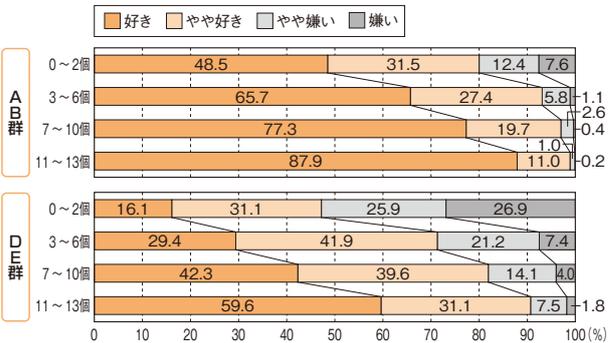
新体力テストの総合評価がDE群の児童生徒においても、同じ傾向が見られた。運動やスポーツが楽しいと感じる経験を増やすことが「運動やスポーツをすることは好き」につながる事が期待できる。

【図1-3】 「運動やスポーツをすることは好き」と「運動やスポーツを行って楽しいと感じたときの選択数」との関係

小学校 質問1 「運動やスポーツをすることは好き」 × 質問2 「運動やスポーツが楽しいと感じたとき」



中学校 質問1 「運動やスポーツをすることは好き」 × 質問2 「運動やスポーツが楽しいと感じたとき」



次に、DE群における「体育（保健体育）の授業は楽しい」（質問11）と「運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき」（質問2）のクロス集計を行った。

「体育の授業が楽しい児童生徒」と「楽しくない児童生徒」で「楽しいと感じたとき」の差（「楽しい」－「楽しくない」）を比べると、小学校と中学校の男女とも「勝ったとき」「記録が伸びたとき」「上手にできたとき」「できなかったことができるようになったとき」で大きな差があった。体育の授業が「あまり楽しくない」「楽しくない」児童生徒における「楽しいと感じたとき」の回答は、小学校男子では「勝ったと

き」「上手にできたとき」「記録が伸びたとき」の順で割合が高かった。中学校男子では「上手にできたとき」「勝ったとき」の割合が高かった。女子は、小中ともに「上手にできたとき」「できなかったことができるようになったとき」「記録が伸びたとき」の割合が高くなっていった（図1-4）。

また、小学校と中学校の男女ともに、「体育の授業が楽しい」児童生徒が「楽しいと感じたことがない」と回答した割合は0.2～0.8%に対し、「体育の授業が楽しくない」児童生徒の「楽しいと感じたことはない」と回答する割合は、28.1～38.1%と高かった。

【図1-4】 体力総合評価DE群の「体育(保健体育)の授業は楽しい」割合別に見る「運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき」の差の関係

小学校 質問11 「体育の授業は楽しい」 × 質問2 「運動やスポーツが楽しいと感じたとき」

● 男子

	勝ったとき	記録が伸びたとき	上手にできたとき	できなかったことができるようになったとき	仲間と一緒に活動したとき	楽しいと感じたことはない
楽しい	76.5%	69.9%	74.1%	65.9%	46.8%	0.5%
やや楽しい	65.5%	62.6%	65.9%	58.7%	32.6%	2.1%
あまり楽しくない	50.9%	47.1%	48.5%	43.8%	21.3%	12.0%
楽しくない	34.9%	28.7%	29.3%	25.9%	13.0%	38.1%
楽しい-楽しくない	41.6	41.2	44.8	40.0	33.8	-37.6

● 女子

	勝ったとき	記録が伸びたとき	上手にできたとき	できなかったことができるようになったとき	仲間と一緒に活動したとき	楽しいと感じたことはない
楽しい	64.8%	73.5%	78.9%	75.5%	51.4%	0.2%
やや楽しい	56.0%	69.6%	74.1%	71.8%	39.9%	0.7%
あまり楽しくない	43.8%	57.8%	60.6%	60.4%	27.4%	5.2%
楽しくない	29.6%	37.3%	38.2%	39.5%	17.5%	28.1%
楽しい-楽しくない	35.2	36.2	40.7	36.0	33.9	-27.9

中学校 質問11 「保健体育の授業は楽しい」 × 質問2 「運動やスポーツが楽しいと感じたとき」

● 男子

		勝ったとき	記録が伸びたとき	上手にできたとき	できなかったことができるようになったとき	先生や監督・コーチなど大人に褒められたとき	楽しいと感じたことはない
質問11 保健体育の授業は楽しいですか。	楽しい	79.1%	59.9%	74.0%	57.2%	40.2%	0.8%
	やや楽しい	67.1%	52.5%	67.2%	50.8%	27.7%	2.2%
	あまり楽しくない	51.5%	38.8%	52.1%	38.1%	18.1%	11.1%
	楽しくない	36.7%	23.1%	33.8%	22.9%	12.0%	35.9%
	楽しい-楽しくない	42.4	36.8	40.2	34.3	28.2	-35.1

● 女子

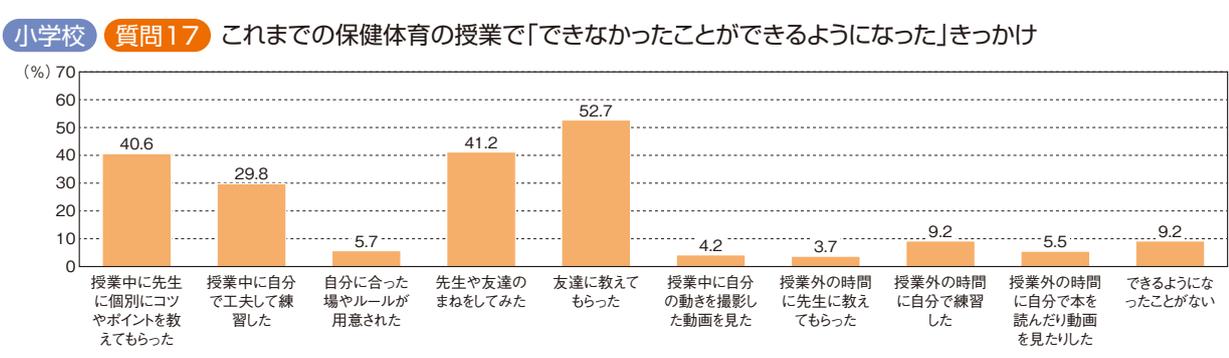
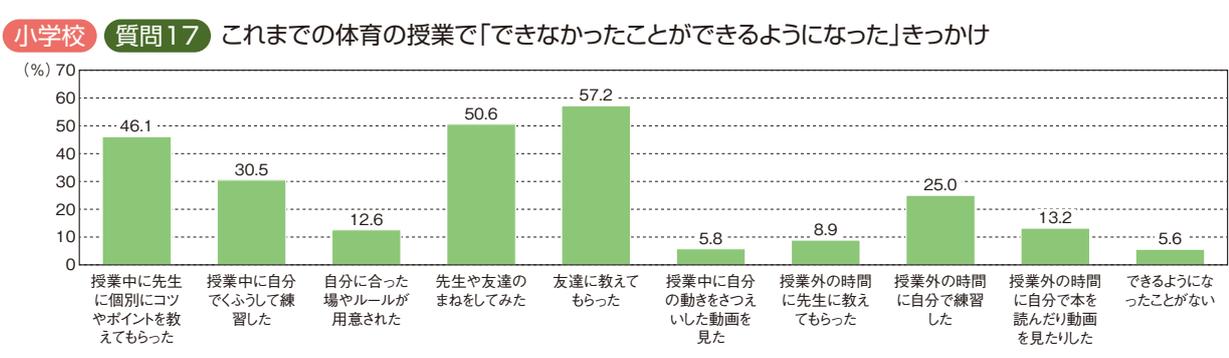
		勝ったとき	記録が伸びたとき	上手にできたとき	できなかったことができるようになったとき	先生や監督・コーチなど大人に褒められたとき	楽しいと感じたことはない
質問11 保健体育の授業は楽しいですか。	楽しい	63.8%	62.0%	72.9%	65.8%	42.6%	0.8%
	やや楽しい	53.3%	55.5%	68.7%	63.3%	32.5%	1.7%
	あまり楽しくない	39.5%	43.1%	56.1%	52.6%	23.6%	8.0%
	楽しくない	24.9%	23.2%	32.7%	29.2%	14.0%	37.0%
	楽しい-楽しくない	38.9	38.8	40.2	36.6	28.6	-36.2

運動が苦手な児童生徒の「できなかったことができるようになったきっかけ」

体力総合評価DE群において体育（保健体育）の授業で「できなかったことができるようになったきっかけ、

理由はどのようなものがありましたか」（質問17）の集計を行った。小学校、中学校ともに「友達に教えてもらった」「先生や友達のまねをしてみた」「授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」の順に回答の割合が高かった（図1-5）。

【図1-5】 体力総合評価DE群の児童生徒が体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ



まとめ

以上のことから、体育（保健体育）の授業を楽しいと感じる児童生徒はそうでない児童生徒に比べ、運動やスポーツを楽しいと感じる経験を多くしている傾向が見られた。児童生徒が運動やスポーツに「楽しさ

を感じる」ことができるよう、体育の授業の中における友達や先生との関わりや、基本となる運動のコツやポイントを教えることを大切にし、「できる」（達成感）を味わうことのできる授業づくりを行っていくことが「運動やスポーツをすることが好き」な児童生徒を増やすことにつながるものと期待できる。

●参考事例→P.58

2 運動が苦手な児童生徒でも運動やスポーツが楽しいと感じる授業の取組について

「運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき」と「授業での取組」

「運動やスポーツを行って楽しいと感じたのは、どのようなときですか（複数回答可）」（質問2）における平均選択数と「授業に関する質問」（質問13、14、15、16、18、19）をクロス集計し、体力総合評価がABの

群とDEの群における取組の有無によって、楽しさの感じ方にどのような差が生まれるかを検討した。その結果、AB群とDE群ともに「体育の授業では、友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていますか」（質問15）において取組の有無による楽しさの感じ方の差が大きいという傾向が見られた（図2-1）。

【図2-1】 取組の有無(質問13~16、18、19)と質問2「運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき」の平均選択数

小学校

		質問13 体育の授業では、授業の始めに授業の目標(目当て・ねらい)が示されていますか。	質問14 体育の授業では、授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っていますか。	質問15 体育の授業では、友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていますか。	質問16 体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか。	質問18 体育の授業で、ビデオデジタルカメラ、タブレット端末などを用いて、自分や友達の動きを捉え、活用する活動を行っていますか。	質問19 体育の授業で、自分に合った練習や場を自分なりに選んで活動することをしていますか。
A B 群	行っている/示されている	8.0%	8.1%	8.2%	8.1%	8.1%	8.2%
	行っていない/示されていない	6.5%	6.8%	5.3%	6.1%	7.5%	6.8%
	取組の有無の差	1.5	1.3	2.9	2.0	0.6	1.4
D E 群	行っている/示されている	6.2%	6.3%	6.7%	6.5%	6.3%	6.6%
	行っていない/示されていない	4.4%	4.8%	3.5%	3.9%	5.6%	4.7%
	取組の有無の差	1.8	1.5	3.2	2.6	0.7	1.9

中学校

		質問13 保健体育の授業では、授業の始めに授業の目標(目当て・ねらい)が示されていますか。	質問14 保健体育の授業では、授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っていますか。	質問15 保健体育の授業では、友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていますか。	質問16 保健体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか。	質問18 保健体育の授業で、ビデオデジタルカメラ、タブレット端末などを用いて、自分や友達の動きを捉え、活用する活動を行っていますか。	質問19 保健体育の授業で、自分に合った練習や場を自分なりに選んで活動することをしていますか。
A B 群	行っている/示されている	6.8%	6.8%	7.0%	7.0%	6.9%	7.1%
	行っていない/示されていない	5.7%	5.9%	4.7%	5.4%	6.5%	6.0%
	取組の有無の差	1.1	0.9	2.3	1.6	0.4	1.1
D E 群	行っている/示されている	4.7%	4.8%	5.1%	5.1%	4.9%	5.2%
	行っていない/示されていない	3.3%	3.6%	2.5%	3.0%	4.4%	3.6%
	取組の有無の差	1.4	1.2	2.6	2.1	0.5	1.6

小学校男子のAB群では、質問15の体育の授業中に助け合い・役割を果たす活動を行う取組の有無によって「仲間と一緒に活動したとき」(29.4ポイント差)、「友達に褒められたとき」(27.6ポイント差)、「友達から応援されて活動したとき」(26.0ポイント差)に楽しさの感じ方に大きな差が見られた(図2-2)。括弧内の数値は取組の有無によるポイント差である(以下、同様)。小学校女子のAB群では、「仲間と一緒に活動したとき」(26.8ポイント差)、「友達から応援されて活動したとき」(26.0ポイント差)、「一緒に活動している友達が上手にできたとき」(24.7ポイント差)に大きな差が見られた。

小学校男子のDE群では、質問15の取組の有無によって「上手にできたとき」(30.1ポイント差)、「仲間と一緒に活動したとき」(29.9ポイント差)、「記録が伸びたとき」(28.9ポイント差)に楽しさの感じ方に大きな差が見られた。小学校女子のDE群では、「できなかったことができるようになったとき」(28.8ポイント差)、「上手にできたとき」(28.2ポイント差)、「仲間と一緒に活動したとき」(27.8ポイント差)に大

きな差が見られた。

中学校男子のAB群では、同じく質問15における取組の有無によって、「仲間と一緒に活動したとき」(23.6ポイント差)、「できなかったことができるようになったとき」(21.6ポイント差)、「上手にできたとき」(19.7ポイント差)に楽しさの感じ方に大きな差が見られた(図2-3)。中学校女子では、「仲間と一緒に活動したとき」(24.5ポイント差)、「教えてもらって、できるようになったとき」(21.8ポイント差)、「できなかったことができるようになったとき」(20.5ポイント差)に大きな差が見られた。

中学校男子のDE群では、「上手にできたとき」(30.3ポイント差)、「勝ったとき」(29.1ポイント差)、「できなかったことができるようになったとき」(27.7ポイント差)に楽しさの感じ方に大きな差が見られた。中学生女子では、「できなかったことができるようになったとき」(30.8ポイント差)、「上手にできたとき」(30.7ポイント差)、「記録が伸びたとき」(26.3ポイント差)に大きな差が見られた。

【図2-2】 「楽しいとき」×「授業の取組」における体力総合評価AB群、DE群の取組の差(小学校質問15)

小学校 質問2 「運動やスポーツが楽しいと感じたとき」 × 質問15 「授業での助け合い、役割を果たす活動」

●男子		勝ったとき	記録が伸びたとき	上手にできたとき	できなかったことができるようになったとき	教えてもらった、できるようになったとき	教えてもらった、わかったとき	先生や監督・コーチなど大人に褒められたとき	友達に褒められたとき	友達から応援されて活動したとき	上手な人と一緒に活動したとき	一緒に活動している友達が上手にできたとき	仲間と一緒に活動したとき	体を動かしてすっきりしたとき	楽しいと感じたことはない
AB群	行っている	90.3%	84.2%	83.9%	75.2%	58.9%	41.8%	69.0%	55.7%	49.9%	47.2%	46.3%	59.8%	54.2%	0.1%
	行っていない	78.1%	63.3%	62.4%	50.6%	35.8%	21.7%	43.2%	28.1%	23.9%	25.0%	21.1%	30.4%	33.7%	4.1%
	「行っている」と「行っていない」の差	12.2	20.9	21.5	24.6	23.1	20.1	25.8	27.6	26.0	22.2	25.2	29.4	20.5	-4.0
DE群	行っている	75.8%	71.2%	74.8%	67.5%	49.6%	33.7%	50.0%	45.8%	37.5%	29.4%	34.4%	49.6%	43.4%	0.9%
	行っていない	52.4%	42.3%	44.7%	39.1%	24.2%	15.0%	22.7%	18.2%	13.8%	11.5%	11.5%	19.7%	22.4%	17.6%
	「行っている」と「行っていない」の差	23.4	28.9	30.1	28.4	25.4	18.7	27.3	27.6	23.7	17.9	22.9	29.9	21.0	-16.7

●女子		勝ったとき	記録が伸びたとき	上手にできたとき	できなかったことができるようになったとき	教えてもらった、できるようになったとき	教えてもらった、わかったとき	先生や監督・コーチなど大人に褒められたとき	友達に褒められたとき	友達から応援されて活動したとき	上手な人と一緒に活動したとき	一緒に活動している友達が上手にできたとき	仲間と一緒に活動したとき	体を動かしてすっきりしたとき	楽しいと感じたことはない
AB群	行っている	79.8%	86.9%	85.4%	81.6%	62.8%	39.1%	67.3%	60.1%	52.1%	37.4%	49.2%	60.8%	52.0%	0.1%
	行っていない	64.3%	70.0%	68.5%	60.3%	39.6%	20.2%	43.7%	35.0%	26.1%	20.3%	24.5%	34.0%	34.7%	5.4%
	「行っている」と「行っていない」の差	15.5	16.9	16.9	21.3	23.2	18.9	23.6	25.1	26.0	17.1	24.7	26.8	17.3	-5.3
DE群	行っている	62.1%	73.4%	77.6%	75.7%	55.8%	32.6%	51.5%	52.2%	40.5%	21.8%	39.0%	50.1%	36.9%	0.8%
	行っていない	39.4%	45.7%	49.4%	46.9%	30.9%	17.9%	25.9%	24.8%	16.9%	11.0%	15.5%	22.3%	20.2%	17.3%
	「行っている」と「行っていない」の差	22.7	27.7	28.2	28.8	24.9	14.7	25.6	27.4	23.6	10.8	23.5	27.8	16.7	-16.5

【図2-3】 「楽しいとき」×「授業の取組」における体力総合評価AB群、DE群の取組の差(中学校質問15)

中学校 質問2 「運動やスポーツが楽しいと感じたとき」 × 質問15 「授業での助け合い、役割を果たす活動」

●男子		勝ったとき	記録が伸びたとき	上手にできたとき	できなかったことができるようになったとき	教えてもらった、できるようになったとき	教えてもらった、わかったとき	先生や監督・コーチなど大人に褒められたとき	友達に褒められたとき	友達から応援されて活動したとき	上手な人と一緒に活動したとき	一緒に活動している友達が上手にできたとき	仲間と一緒に活動したとき	体を動かしてすっきりしたとき	楽しいと感じたことはない
AB群	行っている	90.9%	71.5%	80.5%	63.8%	46.8%	28.9%	50.9%	38.3%	38.7%	35.1%	31.9%	51.9%	41.4%	0.2%
	行っていない	76.3%	51.8%	60.8%	42.2%	28.9%	17.4%	32.0%	22.1%	21.4%	21.6%	13.9%	28.3%	26.5%	7.5%
	「行っている」と「行っていない」の差	14.6	19.7	19.7	21.6	17.9	11.5	18.9	16.2	17.3	13.5	18.0	23.6	14.9	-7.3
DE群	行っている	74.0%	56.7%	71.4%	55.5%	38.9%	22.0%	36.1%	29.6%	23.5%	18.0%	20.2%	41.1%	29.4%	2.3%
	行っていない	44.9%	32.0%	41.1%	27.8%	18.1%	9.8%	15.0%	11.5%	8.0%	7.1%	6.5%	16.7%	16.8%	25.4%
	「行っている」と「行っていない」の差	29.1	24.7	30.3	27.7	20.8	12.2	21.1	18.1	15.5	10.9	13.7	24.4	12.6	-23.1

●女子		勝ったとき	記録が伸びたとき	上手にできたとき	できなかったことができるようになったとき	教えてもらった、できるようになったとき	教えてもらった、わかったとき	先生や監督・コーチなど大人に褒められたとき	友達に褒められたとき	友達から応援されて活動したとき	上手な人と一緒に活動したとき	一緒に活動している友達が上手にできたとき	仲間と一緒に活動したとき	体を動かしてすっきりしたとき	楽しいと感じたことはない
AB群	行っている	86.0%	74.8%	81.8%	75.2%	56.8%	29.0%	59.5%	45.2%	44.7%	27.2%	36.0%	59.2%	41.1%	0.2%
	行っていない	69.1%	59.4%	64.6%	54.7%	35.0%	17.6%	42.0%	29.1%	25.5%	18.0%	17.5%	34.7%	29.3%	7.3%
	「行っている」と「行っていない」の差	16.9	15.4	17.2	20.5	21.8	11.4	17.5	16.1	19.2	9.2	18.5	24.5	11.8	-7.1
DE群	行っている	53.9%	55.0%	67.7%	63.1%	45.5%	20.8%	34.8%	33.7%	26.8%	8.9%	25.2%	42.0%	23.9%	3.9%
	行っていない	29.4%	28.7%	37.0%	32.3%	21.3%	10.6%	17.9%	17.3%	11.8%	5.1%	9.3%	17.6%	13.6%	32.9%
	「行っている」と「行っていない」の差	24.5	26.3	30.7	30.8	24.2	10.2	16.9	16.4	15.0	3.8	15.9	24.4	10.3	-29.0

まとめ

以上のことから、体育（保健体育）の授業における取組の有無によって、運動の苦手な児童生徒だけでなく、運動が得意な児童生徒においても、運動をする楽しさの感じ方に差が生まれ、取組の実施が子供たちの

楽しさにつながる事が期待できる。さらに、その差が顕著であった友達と関わる（助け合う・役割を果たす）活動を取り入れた場合、自己の成長や先生・友達との関わりの中に運動やスポーツの楽しさを見出す児童生徒が多くなる傾向が見られた。

●参考事例→P.60

運動の苦手な児童生徒に有効な取組

「授業の取組」(質問13~16、18、19)の有無に対し、運動が苦手な児童生徒における「運動やスポーツが好き」(質問1)の割合を比較した。

男子では小中学校ともに、「友達と助け合ったり、役割を果たすような活動」(質問15)、「友達同士やチームの中で話し合う活動」(質問16)、「自分に合った練習や場を自分なりに選んで活動すること」(質問19)において取組を「行っている」場合、「行っていない」場合に比べ、「運動やスポーツが好き」と回答する割合がほぼ2倍であった(図2-4)。加えて小中学校の男女とも、取組を「行っている」場合には「行っていない」場合に比べて「運動やスポーツがきらい」という割合が大幅に減少し、特にその減少率は女子に

おいて大きかった。「授業の始めに授業の目標が示されている」(質問13)、「授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っている」(質問14)についても、「示されている/行っている」場合には「示されていない/行っていない」場合と比較して「運動やスポーツが好き」と回答する割合が高く、「運動やスポーツがきらい」と回答する割合が減少する。このことから、友達と一緒に取り組む活動や授業で目標を設定し振り返る活動は、運動が苦手な児童生徒が運動やスポーツを好きになるために有効な取組であるといえる。

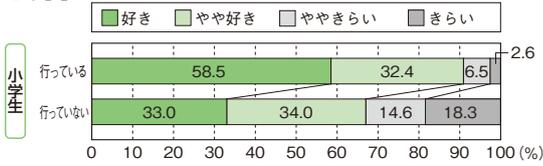
「ビデオ・デジタルカメラ、タブレット端末などを活用する活動」(質問18)でも「行っている」と回答した児童生徒の「運動が好き」と回答する割合が高い。ICT機器の活用が運動嫌いを減少させると期待できる。

[図2-4] 体力総合評価DE群児童生徒における「運動やスポーツが好き」と「授業の取組」のクロス集計

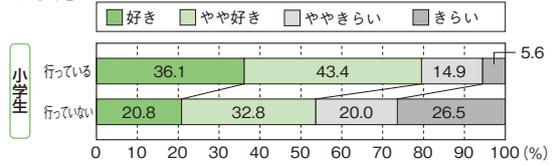


質問16 質問16 「授業での話し合い」 × 「運動やスポーツをすることは好き」

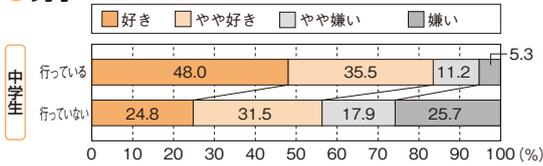
● 男子



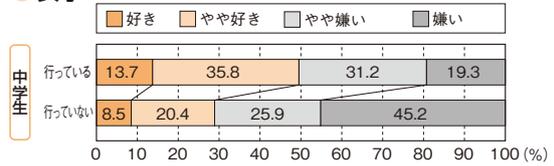
● 女子



● 男子

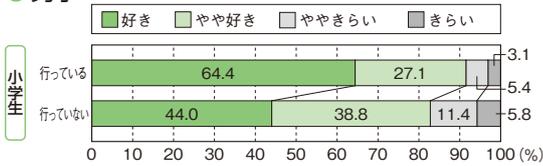


● 女子

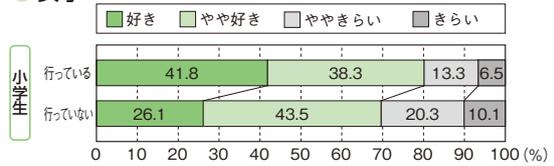


質問18 質問18 「授業でのICTの活用」 × 「運動やスポーツをすることは好き」

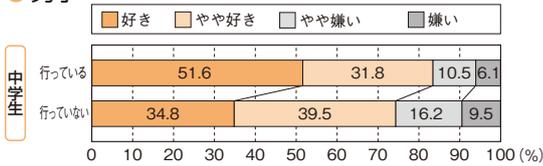
● 男子



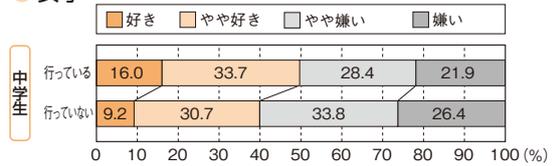
● 女子



● 男子

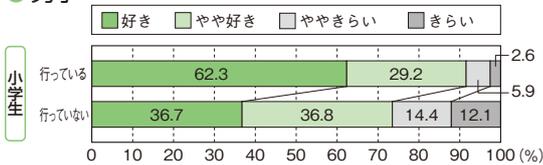


● 女子

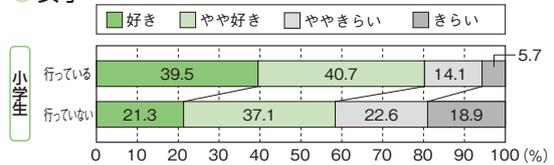


質問19 質問19 「授業での練習や場の工夫」 × 「運動やスポーツをすることは好き」

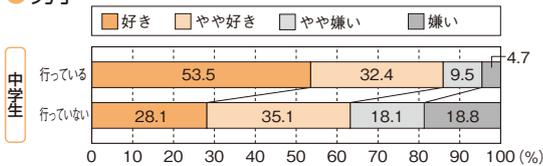
● 男子



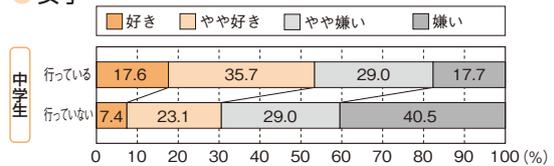
● 女子



● 男子



● 女子



まとめ

以上のことから、授業において工夫された取組を行うなど指導内容を充実させることで運動が苦手な児童

生徒の意識に差が生まれる傾向が見られた。児童生徒の特性に合わせた場の整備や、子供たちが主体的・対話的な学びを享受できるような「促し」が、授業において一層取り組まれることを期待する。

● 参考事例→P.54、56

「運動やスポーツを楽しみと感じたことがない」児童生徒と授業の取組について

次に、体力総合評価がDE群に属する児童生徒のうち「運動やスポーツを行って楽しいと感じたことがない」児童生徒の割合について、体育（保健体育）の授業における様々な取組の有無による差を検討した。

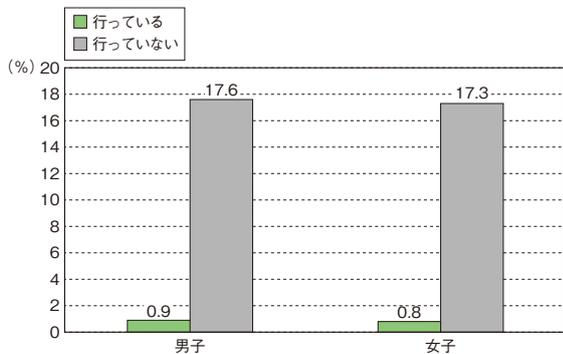
まず、体力総合評価がDE群に属する児童のうち、「体育の授業では、友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っている」（質問15）と回答した児童は、「行っていない」と回答した児童よりも「運動

やスポーツを行って楽しいと感じたことがない」（質問2）と回答した割合が、男子で16.7ポイント、女子で16.5ポイント少なかった（図2-5）。

同様に、体力総合評価がDE群に属する生徒のうち、「保健体育の授業では、友達と助け合ったり、役割を果たすような活動を行っている」（質問15）と回答した生徒は、「行っていない」と回答した生徒よりも「運動やスポーツを行って楽しいと感じたことがない」（質問2）と回答した割合が、男子で23.1ポイント、女子で29.0ポイント少なかった（図2-5）。

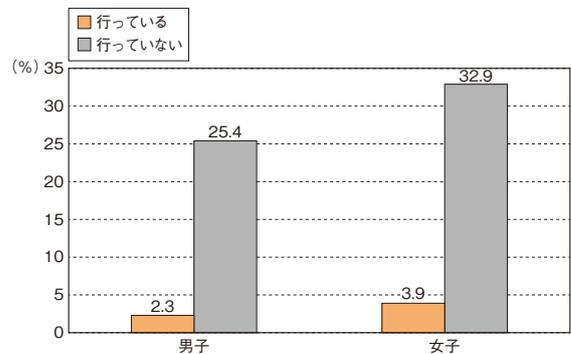
【図2-5】 体力総合評価DE群における「楽しいと感じたことがない」児童生徒と体育(保健体育)の授業で「助け合う、役割を果たす」取組に関する比較

小学校 質問2 「楽しいと感じたことがない」×
質問15 「授業での助け合い、役割を果たす活動」



続いて、体力総合評価がDE群に属する児童のうち、「体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っている」（質問16）と回答した児童は、「行っていない」と回答した児童よりも「運動やスポーツを行って楽しいと感じたことがない」（質問2）と回答した割合が、男子で13.0ポイント、女子で11.7ポイント少なかった（図2-6）。

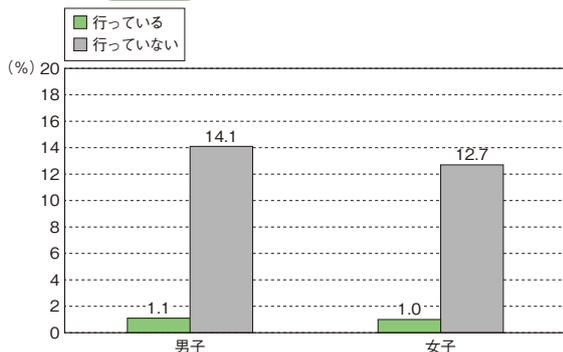
中学校 質問2 「楽しいと感じたことがない」×
質問15 「授業での助け合い、役割を果たす活動」



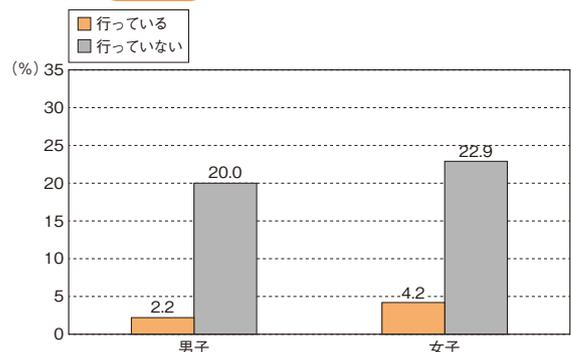
同様に、体力総合評価がDE群に属する生徒のうち「保健体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っている」（質問16）と回答した生徒は、「行っていない」と回答した生徒よりも「運動やスポーツを行って楽しいと感じたことがない」（質問2）と回答した割合が、男子で17.8ポイント、女子で18.7ポイント少なかった（図2-6）。

【図2-6】 体力総合評価DE群における「楽しいと感じたことがない」児童生徒と体育(保健体育)の授業で「話し合う」取組に関する比較

小学校 質問2 「楽しいと感じたことがない」×
質問16 「授業での話し合い」



中学校 質問2 「楽しいと感じたことがない」×
質問16 「授業での話し合い」



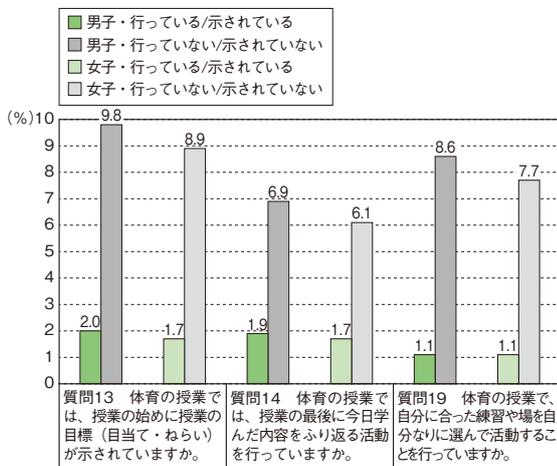
以上の結果から、小中学校ともに体育（保健体育）の授業において、「友達と助け合ったり、役割を果たしたりするような活動を行うこと」や「友達同士やチームの中で話し合う活動を行うこと」によって、「運動やスポーツを行って楽しいと感じたことがない」児童生徒が大幅に減少していることが分かる。

そのほかにも、体育（保健体育）の授業において、「授業の始めに目標が示されている」（質問13）、「自

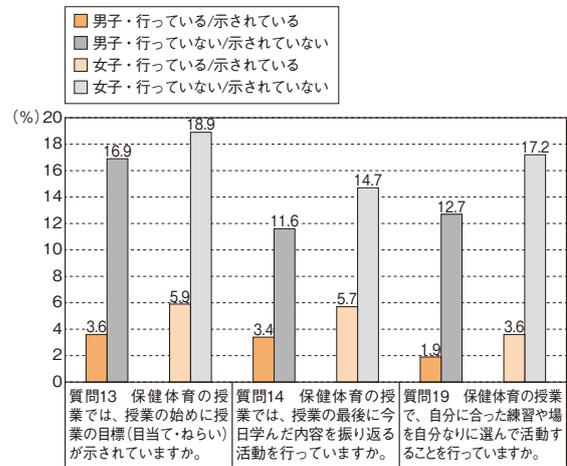
分に合った練習や場を自分なりに選んで活動することを行っている」（質問19）、「授業の最後に今日学んだ内容をふり返る活動を行っている」（質問14）と回答した児童生徒は、「示されていない」「行っていない」と回答した児童生徒よりも、「運動やスポーツを行って楽しいと感じたことがない」（質問2）と回答した割合がいずれも低くなっている（図2-7）。

【図2-7】 体力総合評価DE群における「楽しいと感じたことがない」児童生徒と体育(保健体育)の授業におけるその他の取組に関する比較

小学校 質問2 「楽しいと感じたことがない」×
 質問13 「授業の目標設定」
 質問14 「授業のふり返り」
 質問19 「授業での練習や場の工夫」



中学校 質問2 「楽しいと感じたことがない」×
 質問13 「授業の目標設定」
 質問14 「授業のふり返り」
 質問19 「授業での練習や場の工夫」



まとめ

これらのことは、体育（保健体育）の授業において、友達と助け合ったり、役割を果たしたりする活動や、友達同士で話し合う活動を行うことが、運動が苦手な児童生徒が運動を楽しみ感じるための配慮として効果的であることを示している。さらに、授業の目標を示すこと、振り返りの活動を行うこと、練習の場を選

択することなども有効であることが読み取れる。

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、単元などのまとまりの中で、子供たちにとって必然性の感じられる活動を盛り込み、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組むことは、運動が苦手な子供たちにとっても、運動やスポーツの楽しさを味わうことができる魅力的な授業づくりにつながっていくものと考えられる。

●参考事例→P.60、62